

各省庁で汚染調査

水銀中毒防止会議開く

工場廃水や農薬に含まれている水銀や水銀化合物による慢性的毒性がクローズアップされているが、厚生省では十七日、同省會議室に通産、農林、労働各省と経済企画庁、科学技術庁の担当者を集め「水銀による中毒防止にかんする第三回連絡會議」を開き、今後の対策について検討した。

この結果①新潟県阿賀野川の有

機水銀中毒事件でメチル水銀化合物を検出した昭和電工鹿瀬工場と同じ作業工程を持つ新潟県下の二

工場と、熊本県下の二工場について再び「水俣病」の悲劇を繰り返さないため、各省庁が協力して行政指導を行なう②これらの三工場が実際に廃液を流しているかどうかの調査と、排出口付近の泥の検出検査をする③農薬やマーキユ

ロ、シヨウコウをつくっている薬品工場などその他の水銀を扱う工場（厚生省調べでは河川の近くにある工場だけで二百工場）について水銀汚染の調査、研究を進めることを決めた。

新潟、熊本両県下の三工場については通産省が中心になって製造工程の変更、廃液をセメントにま

せて固める方法、沈殿池をつくって害をなくす方法などの指導が進められ、ほとんど害はないといわれているが、厚生省ではこれをさらに一歩進めて今後の調査や研究と積極的に取り組み、害のないことを一般の人たちに確認、納得さ

せる必要がある、と強調している。

これらの具体的な方法については同日の會議では結論がでず、各省庁が調査、研究のスケジュールを持ち寄って次回（六月）の會合で検討することになった。